

日程第四、総本部婦人部設置に關する決議案

(中央委員会提出)

可決

(男七) 日程第五、全國労働組合總聯合運動に關する決議案

(中央委員会提出)

可決

(1) 白熱的な左右両翼対立闘争の過程に於て、我々評議会は、全無産階級的政治闘争主義の指導精神を、一鷹鷲の翼を以て不出末大、かくて全無産階級政治闘争の共同戦線体として、労働農民党成立と、これを支拂するに依つて、組合の政治的以合型特質を擁護する條件は備はつた。かくして日常經濟闘争の主体として我々評議会は、全無産階級政治闘争の共同戦線体たる労働組合總聯合運動の具體的解決に努力しなすべしとせらる。

(2) 最も急激に發達した我國の労働組合運動の情勢は、いかに廣大なる未組織労働者の存在を思ふべき、その勢力の小さきを思はれりし、しかし組織された労働者は、数百の小組合に分立して、上下政治的傾向の差違による右分派の対立は、一層經濟闘争場面に於て、戦線統一の必要を痛感せしめてゐる。今や我が資本主義トラストは

して完成しつゝ、ある我々のブルジョア階級は、專制的進利と抱合し、その獨裁的文配權確立への全線的展開を始めつゝある。かくて産業の合理化、資本の正面攻撃等、全組織、模倣を以て(特に政治的権力を)動員して、未だ労働條件は低下し、失業率は増大する如ふるに意識化し、ツアシストへの傾向を左とりのある右翼二分派の組合幹部は、公然とブルジョア階級と協力して、積極的には産業の衰却を以て始めてゐる。かくて必然に大衆の不满と反抗は増大し、日常經濟闘争は亦増大の激甚となり、尖鋭化するに至りつゝある。

(3) 全無産階級政治闘争の主義の指導精神と一度齟齬を取りたると左翼労働組合は、此の新なる見地より労働組合の統一運動に強く組合の政治的混合型特質を内包し、一とて展開しつゝある。中間派組合大衆も亦、總聯合運動に強く決意を表明してゐる。四月十一日に開かれた日本労働組合同盟の全日本大会は、満場一致を以て此の議案を可決してゐる。さうして労働派組合の大勢又、總聯合の要望を高くしてゐる。労働大衆のこの要望は、資本の全線的進出による労働條件の低下、失業の増大等による生活の劣悪化と新なる見地より、左翼労働組合の指導と影響の結晶である。

(4) 労働組合の總聯合運動は、政治上の意見の一致を求むべきに非ずして、政治上の意見の如何に拘らねして、労働階級の日常經濟闘争の共同戦線体を作るべきである。従つて直接には經濟上の共通利益を守り